

令和7年度 京都府立井手やまぶき支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) <計画段階>

学校経営方針		前年度の成果と課題		本年度の学校経営の重点(短期目標/概ね1年間)		
【教育理念】 地域と共に歩む学校 【校 是】 光輝 地域(まち)を照らせ 【学校教育目標】 みがく むすぶ きりひらく 【目指す人間像】 よりよい社会と 幸福な人生を創り出せる人 【経営方針】中期経営方針(開校概ね3年間) ◇教育目標実現のために、開校後の第一期、三年間において、地域関係者・保護者に、教育実践・教育課程を理解いただきながら同時に、教育実践・教育課程づくりへの連携協働を進め、「“井手やまぶき支援学校”がこの地域にあって良かった」という思いをもっていただけるように、あらゆる分野において精励する学校経営を実施する。そのために、学校予算の合理的かつ効果的な執行を実施する。 基盤となる課題・重点課題(アクション7<セブン>)を制定する。		三菱みらい育成財団の助成を受け、様々な外部専門家より最先端の知見を学ぶとともに、全国公開研究会を実施し、3年間の成果を発信することができた。「図書ラウンジ」における読書活動の充実と併せて、インクルーシブ教育を踏まえた地域の方々とむすぶ教育活動等の充実により、SMPの保護者評価においては、満足度の高い結果となった。『12年間をつなぐ主体的・対話的で深い学び』をキーワードに『むすびカリキュラム(むすびスタディ・学部混合むすびスタディ)』の研究成果を踏まえ、第2期のスタートの年となる今年度は、インクルーシブ教育の構築を目指した交流及び共同学習の充実や地域の方々とのむすびが深まる教育活動を充実する。また、最終年度となる三菱みらい育成財団の助成と合わせて新規に、中谷財団科学教育振興助成を受ける。教科の視点を改めて捉え、教科学習等における探求的な学びについて考えた指導支援を展開する。 ・みがく授業者サポート会議を100回実施し、授業及び指導スキルの向上を図った。また、人権感覚を磨く「ステージ別研究会」をととして、教職員の人権意識を高めることができた。 ・学年長やコース長等重層的な組織運営により、チーム学校としての教育力を最大限に発揮することができた。 ・「何気ない軽い言葉の持つ重み」等、本校オリジナルのNOハラスメント標語を掲げ、ハラスメントゼロの職場環境を目指した。 ・子どもたちの才能を開花させる「アートギャラリー(学校美術館)」を開館。アートギャラリー展を開催した。 ・AI等を活用した自己表現や自己理解の推進を図るとともに、視線入力装置やペンタブ等のICT機器を活用した授業づくりを深める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童生徒の得意なことや力を発揮したことについて評価できるシステムを作る。		井手やまぶきアクション7(セブン)開校第2期3ヵ年計画のうち1年目 【基盤となる課題】 アクション1 教職員の「学ぶ・働く」を支える環境、教職員の学びが子どもの未来をきりひらく 研究、OJT、外部専門家、働き方改革プロジェクト アクション2 教職員の専門性を生かした連携と協働、地域・家庭・専門家との「むすび」で教育力を高める 学校経理、施設・設備、情報の管理、情報の公開、危機管理、医療的ケア、学校運営協議会(コミュニティースクール)、PTA、YS(やまぶきサポーター)、YB(やまぶきボランティア)、外部専門家、教育後援会等、インクルーシブ教育システムづくり 【重点課題】 アクション3 どのような時代であっても必要な資質・能力の育成 教科指導、授業改善「主体的・対話的で深い学び」(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進)の追求、教育課程、カリキュラム・マネジメント、(GIGAスクール)ICT 等 むすびカリキュラム、(3年目公開研究会) アクション4 生涯に及ぶ、生きる力の育成のための基礎づくり 読書活動、生涯スポーツ・学習、ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)、交流及び共同学習 アクション5 大人に向けた健やかなからだ、豊かな心の育成 保健指導、安全教育、性教育、主権者教育、生徒指導、教育相談、特別活動、いじめ 等 アクション6 自立と社会参加を実現し、幸福な人生とよりよい社会づくりを目指す力の育成、高等部コース制確立 進路指導、キャリア発達、 等 アクション7 早期支援重視し、切れ目なくつなげる地域支援推進、地域関係者・保護者との連携と協働 井手やまぶき相談・支援センターのみならず全校による地域支援		
	評価領域	重点目標	具体的方策/目標値	評価 部門	総合	成果と課題
ア ク シ ョ ン 1	教 教 職 職 員 員 の の 学 ャ び 学 が ぶ 子 ・ ど 働 も く の、 未 を 来 支 え え き り 環 境 ら く、	【研究】 ・全校研究主題の実践研究推進 ・読書活動の推進及び広報活動	①「むすびスタディ」の成果を「交流及び共同学習」に活かすとともに、子ども同士が「知り合う」から「むすぶ」に発展するための必要なキーワードの抽出 ②読書活動をととした子どもたちの学びの姿や変容の事例研究(各学部2事例)及びによる府内の特別支援学校の読書活動牽引校としての自覚をもった図書ラウンジの活用についての情報発信			
		【OJT】 ・教育公務員として府民に信頼される教育活動を基盤とし、児童生徒の規範となる誇りある行動実践に努める。 ・学校組織としての人材育成体制の整備	①体罰や不適切指導、職員間のハラスメントの根絶等、人権意識と社会人・教育公務員としての自覚と行動実践、コンプライアンスの向上につなげる研修や実態調査(7月期)の実施(不適切事象0) ②教育理念・学校教育目標の理解と学校経営目標を意識した教育活動の追求。中間期、総括期にアンケートにて振り返り達成度を確認する。 ③教職員キャリアステージの指標の意識化とステージ別研修の実施 ④専門組織が提供する研修動画等による自己研鑽(ナビゼミ:長への報告システムの構築、NISE 学びラボ、NITS オンライン講座等の受講1人月1回以上) ⑤初任者及び転入教職員・講師対象の校内研修の充実 ⑥教職員ハンドブック、学校施設管理マニュアル、文書マニュアル等の周知			
		【働き方改革プロジェクト】 ・ライフワークバランスを踏まえた安全で魅力ある職場環境の創出 ・愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境を築く。	①『やまぶきスマートプロジェクト』に基づく快適な職場環境の整備、リフレッシュの機会の充実、クリアデスク、ペーパーレス化、NO残業デーの実施(月2日)、19時退勤2週間(各学期に1回)、月1時間からのリフレッシュ年休の推奨(衛生委員会による広報活動) ②働き方改革は教職員一人一人が自分事と捉え全員で推進。前月時間外勤務45時間以上者(休日出勤含む)の働き方シートの活用による中間時点での管理職との定期面談と業務整理(時間外勤務0) ③会議の所要時間目安45分以内の意識化(衛生委員会による広報活動)			
ア ク シ ョ ン 2	教 教 職 職 員 員 の の 専 専 門 門 性 性 を を 生 生 む む か か す す た た ら ら 連 連 携 携 と と 育 育 協 協 力 力 働 働 を を 高 高 め め 域 域 ・ 家 家 庭 ・ 専 専 門 家 家 と と の	【チーム学校】 ・質の高い教育活動を支える経営企画機能の充実	①多様な専門性を有するスタッフや外部専門家と教職員が自らの専門性を十分に発揮し、「チーム学校」としての総合力、教育力を最大化できる体制の構築 ②経営企画室と職員室の連携と情報共有による確実な業務遂行(分掌部長との連携)			
		【学校経理】 【施設設備】	①学校経営計画の具体化に向けた合理的・効果的な予算執行を学校経営会議で予算状況の開示による節減 ②整理整頓されたきれいな教育環境の維持管理に努める。(教室・廊下、掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・道具の管理) ③絵画作品等の計画的展示等、アートギャラリーにおける美術展の開催と外部専門家の招へい ④府立学校体育施設開放事業の実施(年2回)			
		【情報の管理、情報公開】	①個人情報保護と紛失事故防止、クリアデスクの徹底 ②HP・Instagramによる情報発信の活発化(各学部HP毎日発信) ③新聞社への広報(掲載1回/月)、教育雑誌への情報提供・掲載(2投稿)			
		【危機管理】 ・学校安全会議の計画的な運営による安全・安心な安全管理体制の構築 【医療的ケア】	①感染予防・感染拡大防止等対応の徹底 ②地域との災害時相互協力関係(福祉避難所の検討)をPTA防災部との連携による防災活動の推進 ③『普通救命技師認定証』を保有する教職員の表示(認定シール) ④医療的ケア安全委員会を中心とした研修を計画的に行うと共に、医療的ケアに関するヒヤリハット事象及びインシデント・アクシデント情報の周知と事故発生防止の徹底 ⑤個別の緊急対応訓練の実施(各学部3回以上)及びあらゆる危機に対する、早期対応と情報共有(PTA防災部の評価)			
		【保護者・地域との連携・協働】 ・地域の中での生涯学習の基盤作りとして、地域と共に歩む学校づくりに向けた推進体制を構築 ・学校運営協議会(コミュニティースクール)、PTA、教育後援会との連携・協働	①学校公開(年5回)来校者(年900名以上)、やまぶき祭来校者(200名以上) ②学校評価保護者アンケートの回収率(90%以上) ③PTA(YS)、地域ボランティア(YB)による応援組織の構築(年延べ150名) ④PTA本部役員会と学年・コース長との協働による ⑤地域住民の参画による豊かな体験的学習の充実(こまちサロン20回以上等) ⑦教育後援会の支援のもと、教育環境の充実			
		【インクルーシブ教育システム】 ・インクルーシブ教育の構築を目指した、交流及び共同学習の実施	①井手町の2小学校1中学校との交流活動の進化及び校区地域への発信 ②小学部居住地校交流・交流及び共同学習の実施、く様々な交流形式の定着と「知り合う」ための機会の模索 ③地域貢献活動等地域との多様な取組の実施(新規公施設2箇所開拓) ④地域の方々への図書ラウンジ本の貸出し			

アクション3	資 質 能 力 の 育 成 ど の よ う な 時 代 で あ っ て も 必 要	【教科指導、授業改善、教育課程】 ・主体的・対話的で深い学び(個別最適な学びと協働的な学びの追究)、授業改善 ・教育目標に基づく授業実践と地域資源を活用した授業の実施	①学級担任が行う自立活動の指導の充実と流れ図を使った実態把握から具体的な指導内容の設定（ ②確かな学力の育成に向けて基礎基本的な知識・技能の確実な習得を図る教科別の指導の充実 ③「教科」の学びを明確にした各教科等を合わせた指導の充実と各教科等横断的な視点をもった学習の実施 ④地域資源活用との取組を継続的な実施と地域の方々とのむすびを深める学びの充実			
		【カリキュラム・マネジメント】 ・継続的・発展的な授業改善の推進 ・重層的・機能的な組織運営と教育指導に向けた組織マネジメント	①学部間・教師間の連携、学びの連続性等、12年間を結ぶ、『むすびカリキュラム』の展開 ②総括・教務部長会議と連携しながら各学部で教育課程を検討し、指導計画の改善に生かす。 ③学年・コース長のリーダーシップのもと、学年及びコース運営を効果的に行う。全校学部経営会議で目的等の共有を行う。 ④副学年・コース長を中心にフォローアップや教職員集団の同僚性を高める。 ⑤ベアクラスや学年・コースや自立活動推進担当等の教師集団がつながり、日常的に組織的な指導を行う。			
		【GIGAスクール】 ・ICT機器を利活用し、意思表示の手段や外部との関わりをもつことで、生活や学習に対する意欲及び自己表現力を育む。	①AIを活用した自己表現の拡大と自己理解の推進 ②視線入力装置やペンタブ等を活用した表現方法の拡大 ③デジタルによる製品や作品づくりの経験や地域社会とのつながり			
アクション4	生 涯 に 及 ぶ の 基 盤 作 り	【読書活動の充実】 ・府立特別支援学校の読書活動の牽引校として蔵書整備しつつ、読書活動が定着するように全校プログラムを展開する。	①外部専門家を招き、YS(やまぶきサポーター)、YB(やまぶきボランティア)と協働による図書環境を整備 ②読書月間や読書表彰式等による全校的な読書活動の推進(本の貸出 年5000冊以上 月1人3冊以上) ③府立図書館や町立図書館の活用及び団体貸し出しの積極導入(600冊) ④図書・新聞を活用した読書活動を組み入れた授業連携(学部5例以上) ⑤読書活動推進委員会による読書活動の充実(読書月間、読み聞かせの会)及び牽引校としての府内発信 ⑥蔵書計画による蔵書数4500冊(R7年度約3500冊スタート) ⑦読書・バリアフリーを目指した「誰もが読書がでる学校図書館」の実現(LLブックや布の絵本・さわる絵本、マルチメディアDAISY図書、電子書籍等の充実) ⑧企業との連携による分類マークの意味理解を促し、分類マーク等の図書ラウンジマップの作製			
		【生涯スポーツ・生涯文化につながる学習の充実】 ・生涯にわたってスポーツ、芸術・文化活動に親しむ意欲や習慣を育てる指導の充実	①CS(学校運営協議会/コミュニティースクール)によるISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)を年4回実施(参加者150名以上)及び卒業生の参加の機会の提供 ②外部部活指導者による、専門的な指導のもと部活動の計画的な実施 ③府立特別支援学校スポーツ交流会大会等への計画的な参加			
アクション5	大 人 に 向 け た 健 や かな 体 、 豊 か な 心 の 育 成	【人権尊重の教育の推進】 ・人権を大切にする教育の充実 ・適切な生徒指導と、事象の共有化	①12年間を結んだ主権者教育や人権教育を計画的に行い、社会へつなげる指導を行う。 ②SCやSSWと連携し、指導事象を共有化する関係者会議等を行う。 ③心理面の支援に重点をおく教育相談体制の充実、高等部生(みらいデザインコース)及び希望者のSC面談を行い心の相談相手の認識を高める。 ④人権尊重の観点から、「さんさん」呼びなど児童生徒への丁寧な呼び方や言葉遣いを意識するとともに、校内・職員室・経営企画室内においても、教職員同士が互いを尊重した言葉遣いの徹底を図る。 ⑤アンケートによるいじめの未然防止と体罰・不適切な指導の禁止・根絶			
		【安全教育の推進】	①各学部で安全教育を単元化と安全の日を設定し、防災・防犯・安全訓練を実施(月1回以上) ②児童生徒の防災頭巾(家庭準備)100%備える。 ③施設安全／施設・設備利用に関する安全な利用方法の徹底(行方不明・けが等の防止、安全表示) ④通学安全／通学環境の整備(SB 発着体制、送迎車両対応、通学路点検) ⑤避難訓練／外部評価を活用した、より実際に則した訓練の実施			
		【保健指導、教育相談、特別活動】 ・安全・安心な保健体制の構築	①個に応じた安全でおいしい給食提供とお話給本(図鑑)とのコラボ給食(毎学期)の実施 ②適切なアレルギー対応を行う為の教職員研修及び校内保健体制の構築 ③安心安全な医療的ケア制度の実施とその体制を構築するための「やまぶき医療的ケアハンドブック」の考案			
アクション6	す よ し 自 力 い 、 立 の 社 幸 と 育 会 福 社 成 づ な 会 く 人 参 り 生 加 を と を 目 よ 実 指 り	【進路指導・支援】 ・希望進路の実現と進路開拓	①高等部卒業後の社会参加を見据えた12年間を通した進路学習及びニーズに応じた保護者支援の充実 ②高等部コース制に連動させた校外実習(職場実習)を積極的に実施と働くことへの意欲を高める学びの模索 ③進路情報の教職員への周知・学習の機会として校内研修等の実施や事業所や実習先へ見学する機会を設ける。			
		【キャリア発達等】 ・児童生徒がライフステージを意識した、学習活動と学部ごとのゴールを明確にしたキャリア教育の推進	①おすびスタディの成果を活かすとともに、社会や人の役に立つ喜びを豊富に体験し、児童生徒の自己肯定感や意欲を育てる一貫性のあるキャリア教育の推進 ②自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐキャリアパスポートの活用(キャリアパスポート表彰:試行) ③中学部・高等部教員による実習先の新規開拓(一人一社以上)			
アクション7	る 切 早 地 れ 期 域 目 支 支 な 援 く を 推 つ 重 進 な 視 げし	【井手やまぶき相談・支援センターのみならず全校による地域支援】	①園や学校との「むすび」をスタートする「なんでも相談会」の実施及び依頼に基づく早期から学びにくい子への支援体制の構築 ②市町教育委員会等との綿密な連携を目指し校区相談支援体制の整備の模索 ③「個別最適化」「インクルーシブ」「高等学校の支援体制の構築」をキーワードにした相談活動及び障害のある児童生徒及びその保護者へのきめ細かな支援 ⑤校内地域巡回相談員の積極的活用			

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	